

町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想 概要版

1. まちづくり構想の策定と改定の経緯(本編P3)

木曽山崎団地地区は1960年代に、高度成長期の住宅不足に対処するため、住宅建設とあわせて、道路、公園、学校施設など公共施設が一体的に整備されました。



整備当時の団地地区（町田市 市勢要覧1971より）

町田市は、木曽山崎団地地区の活性化を目指し、2013年に「町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想」を策定しました。この構想で掲げた「学校跡地の活用を中心としたまちづくり」は、町田木曽山崎パラアリーナの整備をもって、すべての学校跡地における拠点整備が完了します。2021年に東京都は、多摩都市モノレールの町田方面延伸ルートとして、木曽山崎団地地区を通るルートを選定・公表しました。このことも踏まえ、町田市が2022年3月に策定した「町田市都市づくりのマスタープラン」では、木曽山崎団地地区を町田市の都市づくりをけん引するエリアと位置づけ、住宅地を多機能化するプロジェクトを推進することを掲げました。さらに、2024年には、町田市は多摩市と協働し「モノレール沿線まちづくり構想」を策定し、木曽山崎団地地区の再生を位置づけました。これからのまちづくりを進めるにあたり、これまでのまちづくりの進捗を踏まえ、そしてモノレールの延伸を見据えて、この度「町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想」を改定しました。

2. まちづくりの目標・方向性(本編P20)

まちづくりの目標 『新しい魅力と人の和を生む団地再生まちづくり』

まちづくりの方向性1 安心して暮らせるまちづくり

防災・防犯体制を強化すると同時に、住戸の改善、医療・福祉・介護等の充実を図り、長く住み続けられるまちを目指します。

まちづくりの方向性2 楽しく交流できるまちづくり

多様な世代やライフスタイルの人達が、気軽に集い、交流することができる場を作り、新たなコミュニティを形成します。

まちづくりの方向性3 利便性の高いまちづくり

すべての居住者にとって暮らしやすい生活サービスや、モノレール新駅を中心とした便利な公共交通を充実させます。

まちづくりの方向性4 周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり

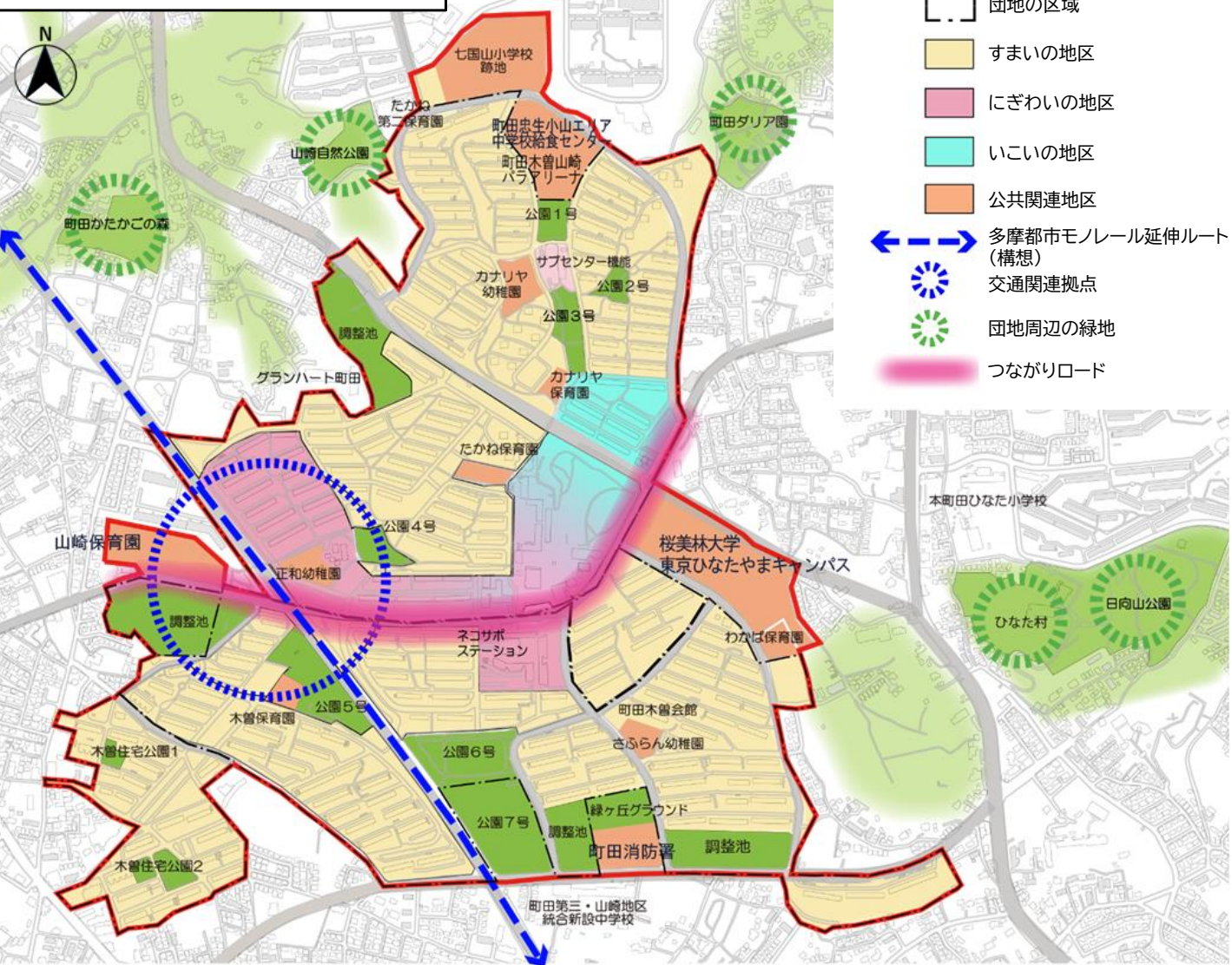
地区外から訪れたい、住みたい、歩きたいようなまちの魅力を作ります。

まちづくりの方向性5 環境を考えたまちづくり

緑があふれ、敷地にゆとりのある住環境を生かしつつ、省エネルギーや省資源化に配慮したまちを目指します。

3. まちの将来像(本編P21～23)

2040年頃の木曽山崎団地地区のエリアイメージ



【各地区で目指す姿】

すまいの地区

- 多様なライフスタイルに対応する魅力的な住戸や施設が提供され暮らしやすい
- 高齢・子育て等の多様な世代が暮らしている
- 多世代交流が盛んである
- 災害に強く安心して暮らせる
- 歩行者空間の魅力向上やバリアフリー化により楽しく歩きやすい
- 小さな交通手段により移動がしやすい
- 地域の貴重な環境資源である緑をまちの魅力として積極的に育成・活用している

にぎわいの地区

- モノレールの新駅及び交通広場の整備に伴い、バスネットワークの再編や新たなモビリティの導入が進み、利便性の高い交通結節点が形成されるとともに、商業、飲食、娯楽や多様な働き方に対応した都市機能などが集約された「交通関連拠点」となる
- 交通関連拠点を中心として、多様な都市機能や地域の豊かな緑を感じられるオープンスペース、快適な休憩スペースなどが広がり、地区内外の人々でにぎわう交流・活動拠点となる
- 団地いちょう通りを歩きやすく、にぎわいの連続性を持った「つながりロード」とすることで、人々のつながりと活気が広がっている

いこいの地区

- 豊かな自然環境や公園等を活用して多様な活動・体験が行われている
- 健康を促進するための環境が充実している
- 自然と触れ合いながらリラックスできる
- 地区内外から憩いを求めて多くの人が訪れる

4. まちづくりの進め方(本編P24～25)

